

地域の特徴を活かした体系的な森林環境教育の取り組み

東北森林管理局 津軽森林管理署金木支署 一般職員 佐々木 尚輝
技術普及課 企画係長 岡浦 貴富
(元 森林技術・支援センター 森林技術専門官)

1 課題を取り上げた背景

青森県の津軽地域には日本三大美林の一つである青森ヒバがあり、明治時代には日本初の森林鉄道である津軽森林鉄道が建設されました。また、「後世に伝えるべき治山～よみがえる緑～」にも選定されている屏風山海岸防災林等もあります。この地域は歴史的にも人々の生活に関しても、森林・林業に関わりの深い地域です。

津軽森林管理署金木支署(以下「支署」と)と森林技術・支援センター(以下「センター」と)では、地域の特徴を活かした題材を用いて体系的な森林環境教育を実施してきており、支署とセンターが連携して取り組んでいる中里中学校の活動(遊々の森)を中心にしてこれらを紹介します。

2 取組の経過

平成24年5月に当支署と中里中学校が「遊々の森(あすなる自遊モリ森)」の協定を締結しました。中学校側の要請により、支署とセンターの職員を派遣し、①1年生時に森林教室、②センターの技術を活かした空中取り木苗作製・森林調査体験、③植栽体験、2年生時に④下刈り・測樹体験の取組に協力しています。森林教室では津軽地域に関連する青森ヒバ、森林鉄道等の森林・林業に対して興味や関心がわく内容としました。また、講義形式だけでなく、五感を通して樹木を感じたり(木



木の重さの違いを感じる

の重さ、木肌の肌触り、木の香り等)、森林調査道具の使用等の体験型授業を行っています。活動時には、生徒や教師にアンケートをとり、次年度の取組に反映し改善を行っています。

また、小学生への森林教室、一般向けの講座や地域の産業祭等の機会を通じて、森林・林業に関する知識の普及を行っています。



植栽体験の様子

3 実行結果

毎年内容の改善をしながら、事前の学習(森林教室)から苗木作り、植栽、保育(下刈り)、成林した木の調査(胸高直径・樹高から材積を求める)の体系的な学習を行っています。これらの取組は中学校側から一定の評価を得ており、中学3年生の職場体験の依頼もされています。

実施している森林環境教育の中で、生徒へのアンケート結果や感想(「植物に対する興味がわいて、同じような体験がしたいと思った」)から森林に対する興味・関心が高まっていることが分かりました。また、教職員からは「生徒にとって貴重な体験になった」や「他の学校に赴任しても実施したい」等の感想がありました。

4 考察

地域の特徴を題材にした森林環境教育や「遊々の森」の活動の中で、中学校の生徒のみならず教職員にも森林・林業に関する理解を深める事ができていることから、さらに充実した森林環境教育を目指し、これからも継続的に中学校に対して森林環境教育や活動に協力していきます。

今後、当支署管内においてセンターの技術協力を得ながら積極的に森林環境教育を実施したり、国民参加の森林づくりの活動の場を提供していきたいと考えています。